

# 年少者の母語支援を通した日本語の学び

## - 教科学習における母語訳教材の役割 -

石上 綾子

### 要 旨

日本の学校に在籍する外国人年少者の課題として、教科学習を進めるのに必要な日本語を習得することが挙げられている。本稿では教科学習を軸にして母語と日本語の二言語の育成を目指す「日本語・母語相互育成学習」に基づいて、中南米出身の中学生に行った母語支援で使用した母語教材について取り上げ、その役割を探り日本語能力を向上させるための手立てについて考察した。そして、母語訳教材を使用して母語支援を行うことで、母語支援者との学習では母語で内容を理解でき、日本語による授業でも日本語の教科書や母語訳、また、日本語と母語の語彙表を活用しながら、日本語による授業を理解することができた。

【キーワード】外国人年少者 日本語・母語相互育成学習 母語訳教材 母語支援

## Learning Japanese Language with Mother- Tongue Support for Non-Japanese Speaking Child : the effects of teaching materials translated into child's mother tongue

ISHIGAMI Ayako

【Abstract】 Recently an important topic for children learning Japanese as a second language is learning Japanese in order to understand subject studys. This paper looks at the teaching materials which were used to teach a South American junior high school student with the support of the child's mother tongue. This support was based on the method where a subject is studied through both mother tongue and Japanese. The author analyzed the role of teaching materials translated into child's mother tongue and probed an effective method to improve the Japanese ability.

Through support of the teaching materials translated into its mother tongue, the child could understand the subject content of the class in Japanese, using these teaching materials .

【Keywords】 children learning Japanese as a second language, the method that study subject with mother tongue and Japanese, teaching materials translated into mother tongue

## 1. はじめに

日本全国の公立の小・中学校に在籍する外国人児童・生徒の増加とともに、彼らに対する適応指導や取り出し指導における日本語指導に関する実践研究が行われてきている。そして、日本語教室が設置されたり日本語指導のための教材や指導の手引きなども発行され、学ぶ環境は整ってきている。しかしながら、学校生活や日常生活に困らないコミュニケーションをとるための日本語は問題ないが、各教科の学習を理解できる日本語能力はついていないことから、教科学習についていけない外国人児童・生徒が問題になっている。そして、このような外国人年少者の教科学習上の困難に対する指導が課題として挙げられている。

また、外国人児童・生徒の教科学習上の課題に対して、彼らの母語や母語教育の必要性について取り上げられ、研究されるようになってきた。寺田(1994)は初期指導として、社会科では母語による語彙指導の必要性を指摘し、母語による指導・母語継承教育の観点から年少者日本語教育が考察されるべきであると主張した。

「日本語・母語相互育成学習」岡崎(1997)では、教科学習を軸にして、母語と日本語の二言語の育成を目指す学習モデルが提唱されている。この相互育成学習に基づいて、筆者は実際に南米出身の児童に母語を使って算数の指導を行った。(石上 2006) 学習を理解するのに必要な説明を母語で行ったり、教科書の学習用語を母語訳したものを使用することを通して、児童の理解を助け、学ぶ意欲を持たせ、学習に必要な日本語を学ぶことができた。このことから、外国人児童の教科学習能力、母語能力、日本語能力が相互に関連し合って伸びていくことが確認できた。

そこで、本稿では母語支援を行う際の母語教材について、その役割を探り母語支援をより効果的にし、日本語能力を向上させるための手立てについて考察する。中学2年生のメキシコ人生徒が通う公立中学校の母語支援教室における国語の授業を研究対象とする。国語の授業で使用する教材を母語訳し、それがどのように「日本語・母語相互育成学習」の目標の一つである「日本語の習得」に効果があるのかを探る。

## 2. 先行研究

日本の学校教育における外国人児童・生徒の母語教育の必要性についてどのような指摘がなされ、母語教育はどのように行われているのであろうか。日本の小・中学校の外国人児童・生徒に対する日本語教育や母語教育の実態を考察し、太田(2000)は次のように教育課題を提案している。

### (1) 母語能力に応じた日本語指導

母語の識字能力が不十分な低学年年齢児に対しては母語教育を優先しながら日本語指導を進めることが必要であるし、母語能力が一定程度確立している子どもにはその能力に見合ったレベルの日本語教育を実施することが肝要である。

## (2) 教科学習の中での日本語教育

在籍学級での授業を外国人児童・生徒が理解できる内容を日本語で行う工夫や、取り出し指導では教科学習を目的として作成されたカリキュラムや教材を用いた授業を展開する。

## (3) 母語の保持・伸長を目的とする母語教育

子どもの識字能力、認知発達、アイデンティティの確立という人間的成長にとって母語の保持・伸長は不可欠な要件である。それゆえ、母語の学習のみならず、母語による教科学習は是非とも実現されなければならない。

寺田(1994)は実際に中南米からの日系人の児童・生徒に社会科の授業を行った。社会科の教科書読解のために教科書に合わせて語彙表を作成し、母語訳を付けた。そして、社会科は熟語がある概念を表しており(例えば『男女平等』)、学習者にとってよくわからない日本語で説明されるよりも、媒介語訳を的確に与えられることで、その文章が表現する内容を類推し、理解を促しているように思われたと、母語訳の効果について言及している。

さらに、実際に「日本語・母語相互育成学習モデル」に基づいた中国人生徒への母語支援が行われている。この支援で朱(2004)は母語(中国語)の読み書きに大きな困難を抱えていた中学2年の生徒に、母語の読み書きの基盤を作ることに焦点をあてた指導を行った。小学校3年生で来日したこの生徒は来日後、中国語による学習機会がなく、抽象的概念を母語で学べなかったようである。そこで、母語支援では在籍学級の国語の教材文の母語要約文や母語で書かれたワークシートなどが使われた。指導の結果、母語訳文に基づいたやり取りを母語を媒介としながら指導することによって、教材文について理解し、思考を深めることができた。しかし、日本語による教科学習への関連については考察されていない。

そこで、本稿では外国人生徒への母語支援の中で特に母語訳をした教材を作成し、それが実際の母語支援の中でどのように活用されているかを分析する。そして、外国人児童・生徒が教科学習を理解するために必要な日本語を学ぶための母語訳教材の役割について明らかにしたい。

## 3. 日本語・母語相互育成学習

本稿の外国人生徒への母語支援は日本語・母語相互育成学習(岡崎:1997)に基づいて行っている。以下に日本語・母語相互育成学習とは何かについてまとめる。

### (1) ねらい

母語の助けを借りて教科書や授業の理解を進める中で学習に必要な日本語を学ぶ。学習に必要な日本語を学ぶために母語を使い続けることで母語の力を保持・育成する。日本語や母語をこのように学習のために使うのと併行して教科書の学習を進める。

(2) 指導方法

指導方法としては授業時間中に当該生徒を在籍学級から取り出し、個別に指導する『取り出し指導』と授業時間に指導者が子どもの在籍学級に入り込んで指導する『入り込み指導』が挙げられる。『取り出し指導』の中では、在籍学級での授業の前に取り上げられる単元の内容を予め学習しておく『先行学習』が行われる。

(3) 教材

在籍学級の学習に使用する教科書を全訳したり、要約したもの  
単元の語彙表  
教科の学習内容を深めるための学習プリント、タスク  
参考資料

#### 4. 母語訳教材について

先に述べたように、学校や日常生活の中でのコミュニケーションに使われる日本語は短期間で習得され、日本語での会話には支障がなくなる。しかし、日本語で行われる各教科の内容を理解するための学習言語の習得には5年以上の期間を要するとされ、大変困難なことである。このような、初期指導として日本語の基礎や会話を身に付けた後の、教科学習に入る時期の指導が、今日、課題として挙げられている。教科学習を理解できる日本語を習得させるために、教科学習と切り離して日本語指導をしても、一から学習を始めた第二外国語である日本語を身に付けるにはさらに5年以上かかってしまい、その間教科学習は進めないということになる。そこで、学習言語を理解可能にするものとして、母語を使用することが挙げられる。『日本語・母語相互育成学習』(岡崎 1997)の中では「母語の助けを借りて学習言語の発達が促進されれば認知面の能力、論理的な能力、概念化の能力等の発達も遅れずに進む。母語が保持され、使い続けていけば既に発達を遂げた認知面の能力は保持され、認知面での継続的な発達が可能になる。」と述べられている。日本語・母語相互育成学習に基づいた学習支援を行うことによって、外国人年少者の母語、日本語、教科のどの面の力も伸ばすことが可能になるということが言える。

実際に横浜市のT中学校で、中南米出身の生徒への学習支援が行われることになり、筆者は学習支援の授業作りの話し合い、また、国語の教科書の母語訳、母語による教材作りを担当することになった。T中学校では日本語を母語としない外国人生徒に1年前から母語支援学習が行われている。母語訳の教材を使った母語支援と日本語による支援が行われ、その母語支援時に使用する教科書や教材の日本語からスペイン語への翻訳を行った。日本語の題材文を対象生徒が理解しやすくなるように翻訳をしたが、その翻訳の作成作業や方法、内容について、また、授業の中でどのように教材が活用されているのか分析したい。

#### 4.1 母語訳教材の作成

日本語を音読することはできても、意味の理解できない日本語で教材文を読むのは生徒にとって苦痛であると思われる。しかし、教科書を母語に訳すことによって、母語であれば教材文の内容が理解でき、予め単元の内容を母語訳の教材文を使って学習することができる。また、学習する内容を理解した上で在籍学級での日本語による授業に臨むことができる。そのことにより、教科の授業内容が理解できるようになるであろう。このことは、学年相当の授業に参加でき、在籍学級の日本人生徒と一緒に同じ単元を学べることにつながり、外国人生徒の授業参加への意欲を高めることに役立つであろう。

##### (1) 概要

対象：横浜市の公立中学校に在籍しているメキシコ出身の中2の女子（以下Mとする）。来日1年が経過した。日常使用する日本語には問題はないが、学習場面において教科書を読んで理解する日本語は身に付いていない。教科書を音読することはできるがたどたどしく、時間がかかり、意味も理解できない。週1時間、母語と日本語による取り出し指導を受けている。その他の時間は在籍学級で授業を受けている。

目的：生徒がこれまでに持っている母語の力や認知力を使って日本語で書かれた教科書の内容や、日本語で行われる授業の内容を理解できるようにし、教科の学習を進めたり、学習に必要な日本語を学ぶことができるようにする。

##### (2) 教科書の母語訳

題材名：中学2年国語の教科書 単元「古典を楽しもう」教材文『平家物語 那須与一』  
題材について：

対象生徒Mへの国語の母語支援は始まったばかりである。母語支援が始まった当初、国語の教科書の単元「読書の幅を広げよう」教材文『父のようにはなりたくない』を使う予定だったので、この教材文の翻訳を行った。しかし、この教材は指導時間の確保が十分にできず、Mが母語訳を読むだけに留まった。続いて、在籍学級の国語の授業計画では単元「古典を楽しもう」教材文『平家物語 那須与一』を学習する計画であったので、この教材を母語訳したものを使って母語支援を行い、前もって在籍学級の授業に準備をして臨むことになった。古典文学は現代文とは違った言葉が使われている。そのため、内容を理解するには現代では使われていない言葉を理解しなければならず、日本人の生徒にとっても古典の学習は難しいという感想を持つ生徒が多い。その古典を外国籍の生徒が学習するというのは、日本語が混乱してしまうし、かなり無理があるように思われた。しかし、外国人生徒の学習の目標を歴史的仮名遣いや口語訳の理解ではなく、母語を助けに内容を理解し、古文に親しむ機会となるように設定した。また、平家物語の時代背景を大まかにつかみ、自国の歴史を振り返って比較をさせ、歴史についても興味を持たせることを目指した。

### (3) 教材作成の過程

Mへの母語支援が決まり、学習計画で扱う教材がわかった時点から教科書の翻訳に取りかかった。母語支援を行う先行学習が始まる前にはMに母語訳を手渡す必要があった。そこで、教科書を「教科書の母語訳をする際考慮した点」に気をつけて翻訳を進めた。Mは母語(スペイン語)がわかる日本人支援者から母語による支援を受けられることから、教科書の要約や内容の説明を受けることが可能なため、教材としては要約文ではなく全訳に近い形とした。

#### 教科書の母語訳をする際考慮した点：

中学2年生の生徒が理解できる母語訳をする。

Mは来日1年が経過している。その間、母語学習はあまり進んでいないので母語の理解力は伸びていないことも考えられる。

登場人物の関係、特に名前だけでは敵・味方かわからず混乱しやすいので、日本語では主語を省略しているが、母語訳する時は主語を省かないように訳す。

登場人物の名前、地名、年号及び当時の時代背景を説明する必要がある。訳文の中に盛り込めない場合は語彙表を用いたり、または口頭で説明したりする。

一語一語厳密な直訳というより、訳しにくいところは平易な表現にしたり、複文を短文の組み合わせに直して訳し、生徒が理解しやすいようにする。

訳文：中学2年 国語の教科書(単元「古典を楽しもう」より)

#### 平家物語 那須与一(現代語訳)

寿永二(1183)年7月、木曾義仲の軍が京都に迫ったので、平家の人々は都を離れ、西海に逃れました。一旦盛り返したものの、翌年二月には、源義経の軍に一の谷を追われ、屋島に退きました。元暦二(1185)年二月、義経がわずかな軍勢であらしをついて四国へ渡り、屋島の城を攻めたため、平家方は海上へ逃れました。

#### Heike Monogatari

En Julio de 1183, los miembros de la familia Heike salieron de la ciudad y escaparon al mar oeste, porque el ejército de Kiso Yoshinaka (Genji) se acercó a Kyoto. Heike por un momento recobró las ferzas pero en febrero del siguiente año Heike fue expulsado de Ichinotani donde estaba y se retiró a la Isla Yashima por el ejército de Minamoto no Yoshitsune(Genji). En febrero de 1185 Minamoto no Yoshitsune con poco ejército pasaron a Shikoku en la tempestad y atacaron al Castillo de Heike en Yashima, por eso Heike escapó al mar.

名前の表記、源氏物語、平家物語：平家物語は平家と源氏の戦いを基に書かれている。物語の背景をつかむ上で、また、平家物語の学習の導入として物語の登場人物の敵味方の関係を理解し、戦いの流れを確認することが学習の大事な過程であろう。Kiso Yoshinaka (木曾義仲) は名前に源氏が使われていないが源氏方である。名前からは源氏方であるのか、敵なのか味方なのかどうか分かりにくい。Minamoto no Yoshitsune(源義経)についても Minamoto という発音から源氏方というのは判断しにくい。そこで、敵というのがわかりやすいように( )に Genji と書き表した。特に木曾義仲は源頼朝、義経のいところであることを知らなければ物語の流れがわかりにくいので、補助教材として語彙表 Vocabulario の中で母語で説明をしている。

は日本語の教材文では「義経」と言うように名前だけで書かれている。敵の源氏であることをわかりやすくするために Minamoto no Yoshitsune とした。

主語の明記、源氏物語、平家物語：第一段落は平家が源氏に追われて逃げていく場面が書かれている。そのため、主語は平家であり、日本語の教材文では主語が省略されている。スペイン語でも動詞の変化で主語が特定できるため主語を省略できるが、平家物語の流れがわかりやすいように Heike、Heike と主語を入れた。

屋島の城が平家の城であることをわかりやすくするため、日本語の教材文では「屋島の城を攻めたため」と書かれ「平家の」は省略されているが、母語訳では Heike を補った。

海上の平家方と陸地の源氏方がにらみ合ううち、日暮れを迎えました。互いに引き退くところに、一そうの小舟が岸に近づいてきて、年若い女房が姿を現すと、日の丸を描いた皆紅の扇をさおの先につけ、船端に立てて、手招きしました。扇を射てみよという挑発だったのです。

Al atardecer Heike en el mar y Genji en la tierra , estaban mirándose con hostilidad. Cuando parecía que los dos cedían uno a otro, un barco pequeño vino y se acercó a la ribera y apareció una mujer joben y llamó con la mano después de enarbolar un abanico rojo dibujando bandera del sol a bordo del barco. Eso era provocación para tirar flechas al abanico.

**助数詞**：一そうの小舟の助数詞「一そう」はスペイン語にはない。数詞(1) + 名詞(小舟)で un barco と表される。日本語での「そう」の意味がつかみにくいと思われる。

**語彙**：「女房は平安時代から江戸時代ごろまでの貴族社会において、朝廷や貴顕の人々に仕えた奥向きの女子使用人」のことであるが、現在では自分の妻に対する謙遜表現として用いる。日本語の教科書では女房と表現されているが、時代背景から前者の意味をとり mujer(女、女性)とした。ただし、語彙表には mujer(女)と esposa(妻)の両方を記した。

## 補助教材：語彙表

	Vocabulario	語彙表(ごいひょう)
平家	へいけ	el clan de Taira
寿永	じゅえい	nombre de una era en Japón como Heisei
軍	ぐん	ejército
木曾義仲	きそよしなか	su verdadero nombre es Minamoto no Yoshinaka. El es un miembro de la familia Minamoto(Genji)
都	みやこ	la capital Kyoto
逃れる	のがれる	escapar
	いったん	por un momento
盛り返す	もりかえす	recobrar
翌年	よくねん	sigiente año
源義経	みなもとのよしつね	hermano menor de Yoritomo quien era Shogún
追われる	おわれる	estar expulsado
退く	しりぞく	retirar
元暦	げんりやく	nombre de una era en Japón
	わずかな	ejército pequeño
軍勢	ぐんぜい	ejército
嵐	あらし	tempestad
攻める	せめる	atacar

語彙表は、Mには教科書の教材文の母語訳と語彙表を母語支援開始前に手渡しておく。母語訳で全体の内容を理解した上で、日本語の教材文の個々の部分を理解しながら読み進めるが、その時、言葉の意味を語彙表で確認しながら学習を進めることができると考える。

#### 4.2 国語の授業における母語教材の活用

毎週1時間、T中学校においてメキシコからの生徒Mに母語支援が行われている。1コマの授業時間のうち前半20分で母語話者による母語支援が行われる。また、後半20分は日本人教師による指導が行われる。本教材を使った国語の授業の指導の報告があったのでまとめてみたい。ただし、この報告は国語の母語支援の最初の時間であり、前半の母語支援の時間は行われず、日本人教師による日本語だけの授業が行われた例である。



## 授業例 1

1. 教科書の母語訳を吹き込んだテープを聞く
  - ・生徒は教科書の母語訳を持っているので文字を目で追いながら聞く。
  - ・母語で、学習する内容を理解することができる。
2. ワークシートに沿った内容の読み取り  
教科書を追い、また、スペイン語の訳を確認しながらワークシートを進めた。

### ワークシート (1)

木曾義仲のまたの名前は何ですか。  
1183年、平家の人たちはどこに逃げましたか。  
1185年、平家はどこに逃げましたか。  
海の上にいるのは(平家・源氏)、陸の上にいるのは(平家・源氏)です。  
をつけてください。  
平家と源氏がならみ合っているのは、一日のうちのいつですか。  
小舟には誰が乗っていますか。  
扇には何が描かれていますか。  
それは、教科書(p77の)絵のどこにありますか。  
その小舟に乗っている人は、何をしましたか。  
小舟の人はなぜ、そのようなことをしたと思いますか。  
誰が弓を射ることになりましたか。  
その弓を射ることになった人は、自信があったと思いますか。  
那須与一は何歳ですか。

ワークシートの質問の意味がわかれば、母語で内容が理解できていることから、日本語の教科書に戻って、読み取ることができるであろう。この時、ワークシートを日本語と母語で表記したり、母語で説明があるとさらに答えやすいのではないか。また、ワークシートを学習する前に、日本語・スペイン語の単語や語句の意味をつかむ必要がある。その時、日本語・スペイン語の語彙表を活用することができる。

上記のように授業が行われたが、生徒の母語を話さない日本人教師が日本語だけで授業を行い、生徒も日本語で書かれたワークシートを基に学習を進めることができた。教師の一方的な指導ではなく、生徒が内容を理解しながら学習ができたのである。それは、教科書の母語訳や日本語と母語の語彙表を活用したからであると思われる。

授業例2

本教材の3時間目の授業である。本授業は1コマの授業のうち前半20分で母語支援が行われ、後半は日本語による授業が行われた、その後半の記録である。前半の母語支援では同じワークシートを母語訳したものが使用された。

授業の流れ	Mの様子
<p>1. これまでの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「那須与一」第一段落のあらすじを確認する。</li> </ul> <p>2. 「晴れがましいかった経験」について話す。</p> <p>3. 第二段落の内容の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートにそって、話し合いをしながら学習を進める。</li> <li>・ 願いをかなえるために、与一は神様に何と言いましたか。</li> </ul> <p>どうして与一は失敗してはいけないと思ったのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「赤」「マル」「平家」など、黒板に貼られた絵と前回の授業で獲得した言葉をを対照させながら、余裕を持って学習している。</li> <li>・コンクールで代表になったことを日本語で発表した。</li> <li>・Mは の問いに対して、初めは教科書の該当部分をそのまま抜き出して読もうとした。しかし、うまく読めず発表が中途半端になってしまったがそこで諦めず、自分の使える範囲の言葉で答えることができた。</li> <li>・「名誉」という言葉を使って説明した。</li> </ul>
<p>ワークシート (2)</p> <p>何月のだいたい何時ごろのできごとですか。                  その時、風はどうでしたか。                  波はどうでしたか。                  舟はどうでしたか。                  平家はどこで、どのように見ていましたか。                  源氏はどこで、どのように見ていましたか。                  「晴れがましい」はどんな意味ですか。                  晴れがましかったのはだれですか。                  どうして晴れがましかったのですか。                  あなたは、どんな時晴れがましいですか。                  与一はどんな神様にお願いしましたか。                  もしあなたが与一だったら、どんな神様にお願いしますか。                  願いをかなえるために、与一は神様に何と言いましたか。                  与一がもし失敗したらどうすると言いましたか。                  どうして与一は失敗してはいけないと思ったのですか。</p>	

- (1) 「これまでの復習」では、本時までに母語話者支援者と同じ内容で母語先行学習を行っている。その時、ワークシートをスペイン語訳したものを使用して課題に取り組んだが、本時では教科書の日本語の本文と日本語のワークシートを対応させながら進めている。学習内容について予め学習しており、言葉の意味も定着してきていることからMは気持ちに余裕を持って授業に臨んでいることがわかる。
- (2) 「晴れがましかった経験」については、宿題として「どんな時にあなたたちは晴れがましかったか」を考えてくることになっていた。Mはコンクールで代表になったことを日本語で話した。この場面は他の外国から来た生徒たちと一緒に学び、生徒それぞれが自分の「晴れがましかった」経験について語り合った。この学びの形態は在籍学級での一斉授業に臨む前段階として、少人数ではあるが日本語で行う授業に参加する経験となった。また、Mは「晴れがましい」という日本語を単に母語に翻訳された言葉で理解するだけにとどまらず、日本語で実感を伴った言葉の理解につながったといえる。
- (3) 「第二段落の内容の理解」の の問いに対してMは教科書の該当部分を読もうとしたがうまくいかなかった。しかし、そこでやめずに自分の使える日本語で答えを言うことができた。このことから、該当部分の教科書の読みはうまくいかなかったものの、自分の言葉で言えたというのは物語の内容は理解していることがわかる。
- (4) の「どうして与一は失敗してはいけないと思ったのですか。」の問いに対して、Mは「名誉」という適切な日本語を使って説明した。本授業の前半で母語支援が行われたが、支援の中で前掲のワークシートをスペイン語訳したものを使用している。そして、教科書の日本語の本文と対応させながら課題に取り組んだ。その結果、同じ箇所を既に母語で学習して理解していたことから日本語での学習に効果が出たのではないかと考えられる。

## 5. 母語訳教材の役割

本稿で取り上げた横浜市のT中学校では現在も母語訳教材を使用した母語支援が行われているが、今後も授業の中でどのように母語訳教材が活用されているのか、さらに継続した観察が必要である。ここでは、現在までの段階として母語支援を行う際使用する母語訳教材の役割についてまとめたい。

- ・ 母語訳の教材文を生徒に与えたり意味の確認をするだけでなく、その教材を使って内容についてフィードバックして日本語の教材を読んだり、生徒自ら日本語の読みの学習を進めることができる。
- ・ 母語訳教材を使って学習する読解方法を身に付けることにより、教材の内容理解が深まり、日本語による課題解決も可能となる。
- ・ 母語訳教材を使った母語支援は在籍学級の国語の授業に先立って行われる「先行学習」の中で行われる。T中学校の場合は先行学習の授業1コマのうち同じ内容を、前半は母語

話者による支援、後半は日本語での学習を行っている。この支援を行うことによって、在籍学級での一斉授業で学習する前に同一箇所を母語話者や日本語支援者と学習することで、理解を深めることができる。このような先行学習の後、一斉授業に臨めば予め内容を学習していることから、生徒は臆することなく授業に参加することができるであろう。

- ・ 教師が生徒の母語を理解していなくても、母語訳教材があれば日本語の教科書と母語訳の教材文を照らし合わせながら学習を進めることも可能である。

## 6. 終わりに

本教材は、日本の中学校に在籍する外国人年少者に母語支援を行うために作成したものである。教材の概要や教材を使った授業例は既述の通りである。そして、この教材を使用して行う先行学習は母語話者支援者と日本語支援者の両者によって支援が行われている。

本稿の母語支援は現在、指導が開始されたばかりで、授業の記録や指導者の報告、生徒の反応等はまだデータが十分とは言えない。今後母語訳教材を使った授業等のデータをさらに集め、母語教材の役割や課題を明らかにしていく予定である。そして、日本の学校に在籍している日本語を母語としない子どもたちにとって、日本語と母語の二言語で教科学習を進めることが、いかに教科学習の理解を促進し日本語能力の向上に役立つのかさらに考察していきたい。

### 【参考文献】

- 池上摩希子(1998)「教科に結びつく初期日本語指導の試み 教材『文型算数』を用いた実践報告」『日本語教育 97号』: 118-129
- 石上綾子(2006)「外国人児童を対象とする母語を活用した教科学習支援の縦断的研究」筑波大学修士論文
- 寺田裕子(1994)「義務教育課程における教科教育を目的とした日本語指導 中南米からの日系就労者への社会科・算数指導の実践報告」『日本語教育 83号』: 29-39
- 太田晴雄(2000)『ニューカマーの子どもと日本の学校』国際書院
- 岡崎敏雄(1997)「日本語・母語相互育成学習のねらい」『平成8年度外国人児童生徒指導資料 母国語による学習のための教材』茨城県庁教育長指導課: 1-7
- \_\_\_\_\_ (2004)「外国人年少者日本語読解研究方法論: 原理論」『筑波大学文芸・言語研究 45巻』: 29-46
- \_\_\_\_\_ (2005)「外国人年少者の教科学習のための日本語習得と母語保持・育成 - 小学校中高学年と中学生の学習支援」『筑波大学文芸・言語研究 46巻』: 1-13
- 川口直巳(2005)「来日ブラジル人児童生徒の教科学習内容の理解状況」『異文化間教育 21号』: 32-43
- 朱桂栄(2002)「教科学習における母語の役割 来日間もない中国人児童の「国語」学習の場

合 』『日本語教育 119号』: 75-84

\_\_\_\_\_ (2004a) 「母語が十分でない中国人生徒への母語学習支援 「教科・母語・日本語相互育成学習モデル」に基づく試み」『人間文化論叢第7巻お茶の水女子大学大学院人間文化研究科』: 367-378